



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

# しらこぼと

## 2018.7

No. 412

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O





# イソヒヨドリの埼玉県内での観察例と その考察

長嶋宏之 (蓮田市)

イソヒヨドリは、スズメ目ヒタキ科イソヒヨドリ属イソヒヨドリ(日本鳥類目録改訂第7版)であって、ヒタキ科の仲間である。日本では、主に海岸の岩礁やその近くに生息しているの「磯にいるヒヨドリのような鳥」から名付けられたようだ。しかし、その環境に似た内陸の岩場やダムなどのコンクリート製建造物にも好んで生息するようである。

そこで私は「実際に、埼玉県内のどこで、何羽位観察されているのか」、鳥友の協力を得て情報を集めてみた。

## ●表1 イソヒヨドリの埼玉県内での観察例

1984年～2018年までの34年間の情報が39件集まった(右)。情報は鳥の♂♀や観察した場所(住所)などを可能な限り詳しく観察者本人から報告を受けた。この時、野鳥の会の探鳥会で記録されたものでも、鳥がいた場所が県外の場合、そのデータは除外した。集まった情報39件の内、♂が31件、♀が17件、性別が不明なもの(UK)が3件あった。

### 1) 県内に繁殖例があった

入間市豊岡では1984年～1987年の4年間、毎年観察された。中でも1985年と1986年に入間市豊岡市街地住宅で2年続けて繁殖が確認された。この住宅に住む荻野勝氏が観察を続けていたとのことだ。内陸での繁殖例として貴重なデータである。

### 2) 将来、繁殖が期待できる場所

狭山市入間川三丁目付近では長谷部、吉田、中川、鈴木等、複数の観察者によって、6回観察された。特に2017年には♂♀同時に観察

表1: イソヒヨドリの埼玉県内での観察例

No.	観察年月日	性	観察者	イソヒヨドリがいた所	備考
1	1984.04.08		荻野 勝	入間市豊岡	2006年12月『入間市の野鳥Ⅲ』入間市
2	1984.11.11		荻野 勝	同上	同上
3	1985年4月、5月	♂♀	荻野 勝	同上	同上
4	1985年6月	♂♀	荻野 勝	同上	同上。この年繁殖した。
5	1986年6月	♂♀	荻野 勝	同上	この年も繁殖したようである(入間市役所の話)
6	1987.04.20		荻野 勝	同上	2006年12月『入間市の野鳥Ⅲ』入間市
7	2010.03.22	♂	鈴木 敬	児玉郡神川町	下久保ダム
8	2011.11.27	♀	長谷部 謙二	狭山市入間川	本富士見橋付近 右岸
9	2012.09.25	♀	池田 榮子	所沢市小手指町	集合住宅屋上
10	2012.11.08	♂	逸見 峻	鴻巣市袋	
11	2012.12.30	♂	内田 克二	幸手市上宇和田	江戸川放水路
12	2013.02.07	♂	佐野 和宏	越谷市増林	越谷総合公園の池周辺 2012年12月末～2013年2月末
13	2013.02.21	♀	長嶋 宏之	白岡市小久喜	町中の民家のブロック塀
14	2013.03.12	♀	長谷部 謙二	川越市的場	
15	2013.03.22	♂	田島 利夫	大里郡寄居町	玉淀湖
16	2013.12.27	♀	松村 禎夫	坂戸市栗生田	高麗川の土手下の資材置き場
17	2014.01.18	♂	中川 敏子	深谷市緑ヶ丘	唐沢川
18	2014.01.25	♂	中里 裕一	久喜市河原井町	久喜市久喜菖蒲工業団地
19	2014.01.26	♀	長谷部 謙二	狭山市入間川	新富士見橋付近 右岸
20	2014.03.09	♂	岡部 悟	狭山市広瀬台	
21	2014.09.14	♂	石井 智	鴻巣市逆川	集合住宅と鴻巣駅西口とを行ったり来たりしていた。
22	2015.01.16	♂	大森 茂男	深谷市緑ヶ丘	深谷駅前
23	2015.01.17	♂	中川 敏子	深谷市緑ヶ丘	唐沢川
24	2015.11.16	♂	富田 美邦	春日部市梅田	
25	2015.11.23	♀	持丸 順彰	富士見市水谷	柳瀬川探鳥会で柳瀬川右岸から左岸(富士見市)を観察
26	2015.11.05	♂	井ノ口 博司	川越市下小坂	小野川に架かる精進場橋の橋げたの下(右岸)
27	2015.11.28	♂	井ノ口 博司	川越市下小坂	小野川に架かる精進場橋の上流(左岸)の田圃の金網の上
28	2016.01.16	♂	長嶋 宏之	久喜市河原井町	久喜市久喜菖蒲工業団地
29	2016.01.30	♂	富田 美邦	春日部市梅田	
30	2016.11.26	♂	吉田 勉	狭山市入間川	本富士見橋
31	2016.11.26	♀	小林 みどり	入間郡越生町越生東	
32	2017.01.07	♂	野口 修	さいたま市南区	荒川貯水池機場
33	2017.01.22	♀	長谷部 謙二	狭山市入間川	本富士見橋付近 右岸
34	2017.02.01	♂	榎本 秀和	鴻巣市大間	
35	2017.09.24	♂♀	長谷部 謙二・中川敏子	狭山市入間川	本富士見橋付近 右岸
36	2017.11.26	♂	鈴木 秀治	狭山市入間川	本富士見橋付近
37	2018.01.05	♀	福本 一秀	さいたま市桜区	さくら草公園
38	2018.01.06	♂	石川 敏男	春日部市粕壁東	碓神社付近 古利根川右岸、人家軒先で囀っていた。
39	2018.04.01	♂	石川 敏男	さいたま市緑区	芝川に架かる新見沼大橋有料道路の左岸橋げた

され、県内で最も繁殖が期待できる地域と思われる。その他、春日部市では3回(2015年、2016年、2018年)、深谷市緑ヶ丘では2回(2014年、2015年)、久喜市久喜菖蒲工業団地では2回(2014年、2016年)と続く。

### 3) イソヒヨドリが多く観察される環境

イソヒヨドリが観察された場所を調べていく内に、その生息環境に共通点が見えてきた。

すなわち、河川、池、沼などが約 300m以内にあり、コンクリート製建造物、スレート製建屋、2階建以上の民家、電信柱などの高い所がある環境である。

### ●図1 月度別観察回数

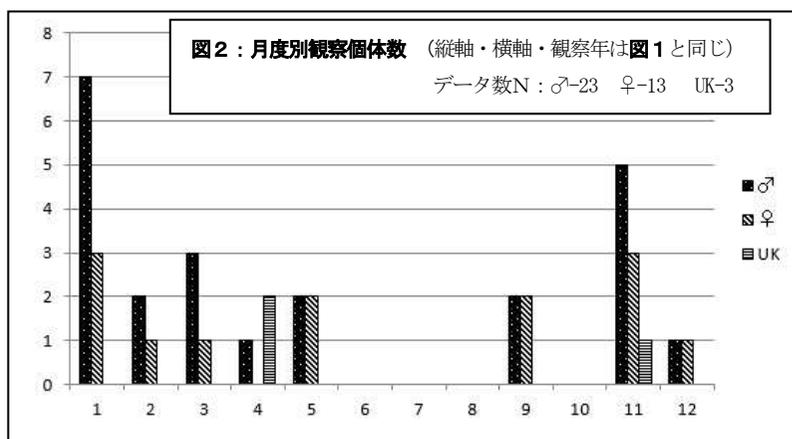
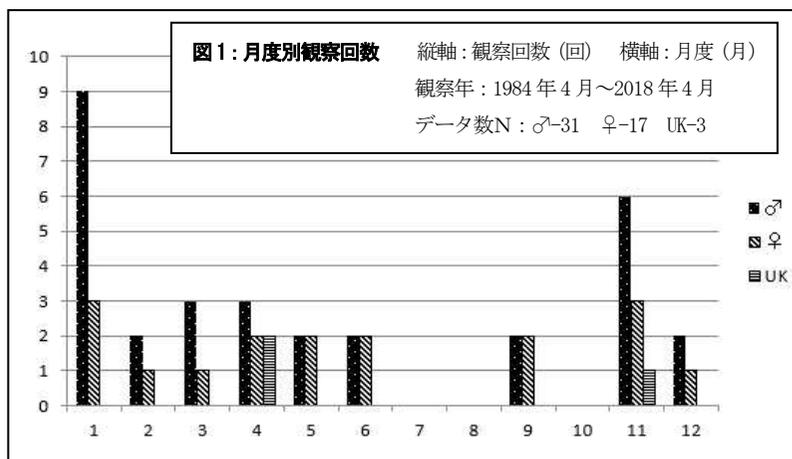
『フィールドガイド日本の野鳥』によるとイソヒヨドリは留鳥および漂鳥となっている。内陸の場合にも当てはまるのだろうか？そこで、月度別に集計してみた(右上)。

♂は11月～3月が多く、♀は少数ではあるが、通年観察されている。しかし7月、8月は♂♀とも観察されていない。7月、8月の観察例がない理由は、①鳥が他所に移動する。②夏の暑い時期は観察者が少なく、観察される機会が少ないなどが考えられる。これからも情報を集めていけば、①②の疑問も明らかになり、7月、8月も観察例が報告されるかもしれない。

### ●図2 月度別観察個体数

図1の観察回数には同一の個体を数か月続けて観察した例も含まれており、鳥の数としてはダブルカウントしていたことになる。明らかに同一の個体と考えられるものを除いて、鳥の数を月度別に表してみた(右中)。その結果、♂30→23羽、♀17→13羽となった。

繁殖に伴い継続して確認された4月、5月、6月の鳥の数を5月だけ記録し、4月と6月を除いた。他の月も同様にダブルカウント分



を除いて図示した。その結果、月ごとの観察羽数の年間の傾向は図1と同じであった。

#### 1) ♂の観察例の方が♀よりも多い

♂は♀の1.77倍観察されている。♂の方が色的に見つけやすいのだろうか？♂も♀も轉るが轉りに差が有るのだろうか？♂の方が内陸まで入るのだろうか？などなどの疑問が残る。

#### 2) 冬季は♂が多い傾向がある

1月、2月、3月、4月、11月、12月…♂≥♀  
5月、9月……………♂=♀

### ●図3 (♂+♀)の観察地の経緯度経年変化

30年間に生息分布域が変化したのだろうか？そこで、観察地点の緯度経度の経年変化を調べて見た(P4右上)。

図3から次の傾向が読み取れる。①海岸近くから年と共に内陸に生息域を広げて行ったという傾向は見当たらない。②2010年以降、緯

度は35.08～36.2度の範囲内であるが、経度は高値が139.8度と変わらないものの、低値（ボトム・ライン）が139.02度から139.40度へと右上がりになっている。距離にして約35km程だが、気になる傾向である。観察地点の経度のボトム・ラインの右上がり傾向が♂によるものなのか♀によるものなのか調べるため、♂と♀それぞれの観察地の経緯度経年変化を調べて見た。

●図4 ♂の観察地の経緯度経年変化、及び、図5 ♀の観察地の経緯度経年変化

観察地点の経度のボトム・ラインの右上がり傾向は♂によるものであることが明らかとなった。

図4（右中）と図5（右下）を比較すると、図4の♂の方が緯度経度とも図5の♀よりも変化幅が大きい。

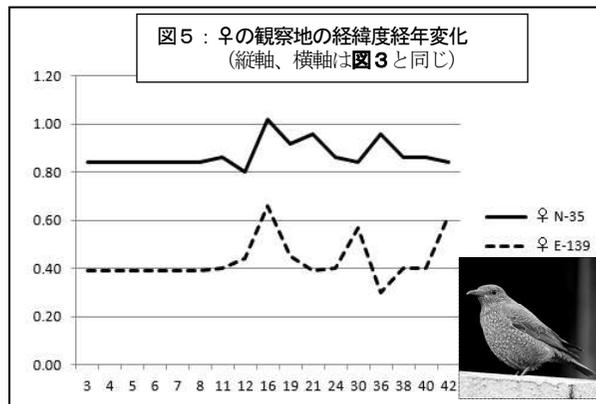
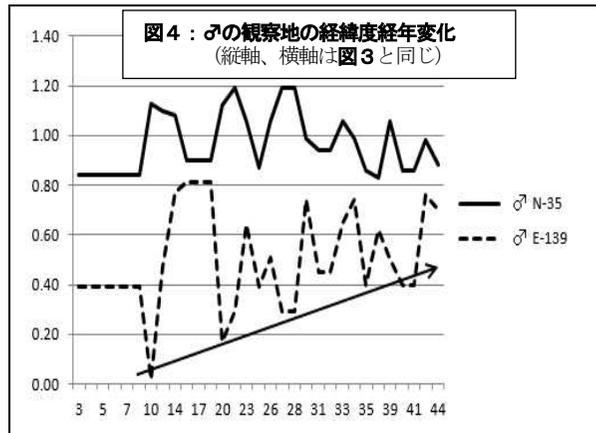
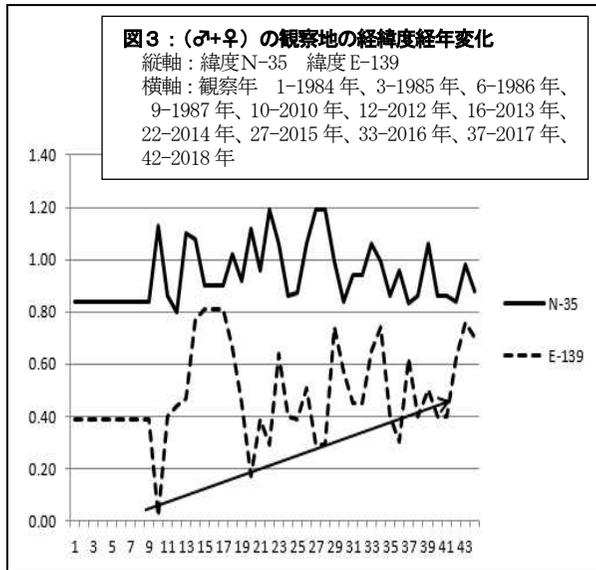
このことは、♀の観察例が少ないからかもしれないが、♂の方が♀よりも生息範囲が広いと言うことを示唆している（表2）。大雑把な計算ではあるが、♂は♀の3.4倍の生息範囲があると言えそうだ。

表2	♂	♀
緯度(N-35)	0.84 ~ 1.18 幅0.34	0.80 ~ 1.02 幅0.22
経度(E-139)	0.02 ~ 0.81 幅0.79	0.30 ~ 0.66 幅0.36
生息範囲	38km × 71km = 2700km <sup>2</sup>	24km × 32.5km = 800km <sup>2</sup>

これから、♂♀共に観察事例を増やしていけば、インヒヨドリこれらの生態がより明らかになるものと思う。情報をお持ちの方は提供して頂けるとありがたい。

送り先：nagasima@star.ocn.ne.jp

今回、県外の情報にも有意な情報が多々あったが割愛させて頂いた。入間市役所および県内外の情報を提供して頂いた鳥友に紙上を借りて感謝致します。



・引用文献:『入間市の野鳥 Ⅲ』(2006)入間市、『しらこぼと』日本野鳥の会埼玉

・写真:P2 インヒヨドリ♂若 大森茂男  
P4 インヒヨドリ♀成鳥 長嶋宏之



## 野鳥情報

**横瀬町埼玉県民の森** ◇3月25日、駐車場の周りの針葉樹からキクイタダキの轉り。東屋の近くでオオマシコ♂♀。ヒガラ、ヤマガラ、コガラ、ホオジロ、シジュウカラが轉る。ほぼ夏羽のカシラダカ3羽（藤原寛治）。

**さいたま市岩槻区岩槻文化公園** ◇3月28日午後2時頃、アカハラの轉りを聞く。ウグイスも短い轉り。シロハラ、アオジ、メジロ、シジュウカラ、コゲラ、ホオジロ、モズ、カワラヒワなど。ツマキチョウが飛ぶ（藤原寛治）。

**さいたま市緑区東浦和** ◇3月29日午前10時、JAさいたま尾間木支店付近でツバメ1羽、上空高く飛ぶ（藤原寛治）。

**坂戸市浅野ビオトープ** ◇4月11日午前7時20分、ビオトープ内遊歩道ぎわのコナラの木に、西の方から飛来してとまるマヒワの群れ、約70羽。盛んに花をついばんでいたが、5分ほどで東方向に飛び去る。8時35分、水路右岸の水ぎわの草地にヒレンジャク1羽。地面で採餌しているようだった（増尾隆）。

**さいたま市岩槻区太田** ◇4月15日、岩槻城跡公園でコマドリ♂1羽（嶋田富夫）。

**さいたま市桜区秋ヶ瀬公園** ◇4月19日午前中、ピクニックの森でコマドリ♂1羽（嶋田富夫）。

**春日部市武里中野** ◇4月17日午前6時32分、田んぼでシギチドリ類1羽が南東方向へ上空を鳴きながら通過。同日同6時50分、上空をムナグロらしき声を発しつつ北東へ通過した。4月18日、まだ日が明るい夕方、多数のムナグロが田んぼで休息している。当地今季初認。昨日、田んぼを見て回った時はいなかったから、この日に飛来したのだろう。午後5時25分頃、ハイタカらしき1羽が北より接近通過したため一斉に飛び立ち、大きく左旋回して北東へ遠ざかった。その際にカウントしたら約100羽の大群であった。この日は昼頃の雨本降りまで田ん

ぼが湿り、また田んぼの何枚かに水が入って、水鳥が付いたのだと思う。他にカルガモ25羽、アオサギ2羽、ダイサギ1羽、チュウサギ2羽(当地今季初認)、コチドリ、タシギ7羽+、クサシギ1羽(当地今季初認)。4月19日午前5時20分〜同7時、サカツラガン2羽。突然大型のカモが南方より飛来。目前上空を通過。なんとサカツラガンだった！北へ遠ざかる方向は大池親水公園。多分、かご抜けと思われる。同池で生まれ育ったものが時々飛び出した実績あり。午前5時24分、ヒヨドリ70羽〜80羽が一群となって北東へ渡る。他にカルガモ18羽+、キジバト、コガモ♂2羽♀2羽、カワウ1羽、アオサギ1羽、ダイサギ3羽、チュウサギ2羽、コサギ2羽、ムナグロ30羽±、コチドリ、タシギ20羽±、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ2羽、ムクドリ、ツグミ多数(残留)、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ（石川敏男）。

**春日部市粕壁東2丁目** ◇4月18日午後11時頃、春日部市内を流れる大落古利根川の春日橋と埼玉葛橋の間できれいな夏羽のユリカモメ1羽、右岸遊歩道沿いのフェンスにとまっていた。他に仲間がいなくて渡り遅れの個体では？また、その下流の水面にオオバン1羽が泳いでいたが、これも渡り遅れかも（石川敏男）。

### 幸手市中川河川敷（54390691、54390690）

◇4月26日、カルガモ10羽、コガモ♂1羽、♀3羽、カワウ2羽、チョウゲンボウ2羽、モズ1羽、シジュウカラ、ツバメ11羽、ヒヨドリ2羽、ムクドリ3羽、スズメ5羽、ハクセキレイ1羽、セグロセキレイ1羽、ホオジロ1羽（荒川貴之）。

**さいたま市大宮区大宮公園** ◇4月29日、動物園そばでオオタカ、地面で何かを捕食していた（齊藤怜香）。

### 表紙の写真

スズメ目アトリ科カワラヒワ属カワラヒワ

暑いけれど暑いなりに、いろいろ楽しめる季節です。

蟹瀬武男(さいたま市)



## 行事案内



ムクドリ親子 (編集部)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。万全の熱中症対策をお願いします。

**参加費：**中学生以下無料、会員 100 円、一般 200 円。

**持ち物：**筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

**解散時刻：**特に記載のない場合、正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。間際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意ください。

### 群馬県板倉町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：7月1日(日)

集合：午前 8 時 15 分、東武日光線 板倉東洋大前駅。または午前 8 時 35 分、想い出橋駐車場。

交通：東武線 新越谷 7:19→春日部 7:36→南栗橋で新栃木行きに乗り換え板倉東洋大前 8:10 着。または JR 宇都宮線 大宮 7:03→栗橋 7:38、東武線 7:57 発新栃木行きに乗り換え板倉東洋大前 8:10 着。

解散：午前 11 時 30 分ごろ、谷中湖北ブロック展望塔付近の藤棚。

担当：佐野、入山、植平、佐藤、進士、田邊、野口(修)、山田

見どころ：第一調節池でコヨシキリ、オオセッカを探します。ササゴイ、ヨシゴイ、そしてカッコウなどにも期待です。

その他：とにかく暑くなります。熱中症対策は万全に！ 天候によってコースを変更します。



ササゴイ若鳥 (編集部)

### さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：7月15日(日)

集合：午前 9 時、さいたま市立浦和博物館前。  
交通：JR 北浦和駅東口、正面信号を左側から渡り、50 m 先左手バスターミナルから 8:23 発東武バス「さいたま市立病院行」で終点下車。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：小林(み)、青木、浅見(徹)、楠見、小菅、新部、畠山、増田

見どころ：夏真っ盛り(かな)。探鳥会も夏枯れですが、ここ三室の定例探鳥会は、休まず営業中です。だって、鳥たちも暑さに負けずに子育ての真っ最中ですから。昨年はムクドリやスズメの家族の群れに会えました。親鳥と大きさは一緒なのに、どこか幼さの残る幼鳥たち。甘えるしぐさが可愛いです。暑さを避けて見沼代用水西縁沿いの木陰道を中心に鳥を探します。涼風が吹いたら、ちょっと芝川まで足を延ばし、カワセミに挨拶しましょう。

### 『しらこぼと』袋づめの会

とき：7月21日(土) 午後 3 時～4 時ごろ

会場：会事務局 108 号室

### 狭山市・入間川定例探鳥会

期日：7月22日(日)

集合：午前 9 時、西武新宿線 狭山市駅西口。  
交通：西武新宿線 本川越 8:42 発、所沢 8:39 発に乗車。

解散：正午ころ、稲荷山公園。  
担当：長谷部、石光、島崎、鈴木(秀)、高草木、  
中村(祐)、藤掛、星、水谷、山口、山本  
見どころ：毎年とても暑い探鳥会になります。  
日陰から日陰へ移動しながら鳥を見てい  
きます。老若男女、体調を整えて参加して  
ください。

### 埼玉 Young 探鳥会 神奈川県大磯町・照ヶ崎海岸

期日：7月28日(土)  
集合：午前9時、JR大磯駅前。  
解散：午前11時半ころ、照ヶ崎海岸。  
担当：廣田、石塚(敬)、河邊、島崎、高崎  
見どころ：大磯町の照ヶ崎海岸でアオバトを  
観察しましょう！ 当日はアオバト観察グ

ループ「こまたん」の皆様にもご協力いた  
だき、アオバトの生態や行動について解説  
していただきます！  
その他：海岸には日陰がありませんので、熱  
中症対策をしっかりとお願いします。



照ヶ崎海岸のアオバト(編集部)

7-9月猛暑の大麻生は探鳥会を休みます。

### アライグマと地表生活性鳥類の急減！ 小荷田行男(さいたま市)

埼玉県内、特に平野部では近年、ウズラ、  
ヒクイナ、タマシギなどの主に地表生活する  
鳥類の個体数が急減している。これらの鳥類  
は田や畑、湿地、草地、耕作放棄地などの草  
原植生で地表生活しており、瞬時の飛翔力が  
充分とは言い難い。県内で近年、上述の土地  
利用が急減している傾向は見られない。

アライグマは1970年代、アニメーションで  
知られるようになり北米から輸入、成獣は飼  
育が難しく放獣が相次いだ。埼玉でも東松山  
(関越道高坂SAで放獣)を中心として県内で  
個体数が急増、作物や鳥類の巣を襲い卵を捕  
食するなど、埼玉の自然や農業に多大の被害  
をもたらす特定外来生物である。2016年度県  
内で5,000頭を捕獲しても多産性のため個体  
数の減少が見られない。

見沼田圃であれほどいたコジュケイもめっ  
きり姿を見せなくなってしまった。中型、大  
型の樹上営巣性の鳥も！

### ミヤマガラスの春の渡りを見た！ 山部直喜(三郷市)

今年の4月17日から20日まで、青森県の  
竜飛崎で春の渡りを見てきた。最も印象深か

ったのはミヤマガラスの渡りである。

私も協力している越谷市の「カラス集団増  
の個体数調査」でも、近年ミヤマガラスの増  
加が著しい。そのミヤマガラスが、どうい  
うコースで関東地方まで行き来しているのか、  
大いに関心のあるところだ。頭では、大陸⇔  
北海道⇔関東地方とは理解できていても、私は  
実際に見たことがない。

それが今、断崖絶壁の先端で北海道をじっ  
と見据え、渡るころ合いを見計らっている。  
やがて、何かの合図で思い切ったように津軽



海峡に身を投げ出すように集団で飛び出して  
いく。「ミヤマガラスの渡りのコースの一つに  
竜飛崎がある」、その確信を得た瞬間だ。「が  
んばれえ～、気をつけてなあ～」と呼びかけ  
ずにはいられなかった(写真)。

他に、猛禽類(この時は少なかった)、ハ  
クチョウ、ヒヨドリ、そしてシジュウカラ、  
ヒガラ、メジロ、ニューナイズメ、ホオジ  
ロ、ベニマシコなどの小鳥たち。この小鳥た  
ち、繁殖をひかえているからだろうか、実に  
綺麗。特にシジュウカラの黄緑色部がこんな  
にも鮮やかだったのかと驚いた。



## 行事報告

1月8日(月、祝) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 37名 天気: 曇

ヒドリガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ トモエガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ オオバン ノスリ コゲラ アオゲラ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス キクイタダキ ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (38種) (番外: ドバト、ガビチョウ) 降雨も心配な中で、日本庭園や梅林では餌探しする鳥に出会い、針葉樹に回ってきた混群の中にはキクイタダキもいた。山田大沼ではトモエガモのオスとメスが潜んでいた。(鈴木秀治)

1月8日(月、祝) 春日部市 内牧公園

参加: 29名 天気: 曇

カルガモ キジバト アオサギ ダイサギ コサギ タシギ ハイタカ カワセミ コゲラ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (31種) (番外: ドバト) 30種を超えて、まずまずだったが、冬の常連ジョウビタキの姿が見えず残念。今冬は全体的に鳥数が少ないなか、ハイタカが頭上を舞い、シロハラもしっかりとお目見えしてくれた。なお、参加者数を数え違いしていたので、訂正してお詫びします。(石川敏男)

1月8日(月、祝) さいたま市 民家園周辺

参加: 37名 天気: 曇

キジ コハクチョウ オオハクチョウ オカヨシガモ ヨシガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ オナガガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ カイツブリ カンムリカイ

ツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ バン オオバン ユリカモメ セグロカモメ チュウヒ ノスリ カワセミ アリスイ コゲラ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (51種) (番外: ドバト) 風も弱く、この時季としては快適な鳥見ができたように思う。今回不思議だったのは関係性。オオハクチョウが3羽でずっといるのはなぜ? オスのカワセミが2羽、人が近寄っても、しばらくの間ずっと一緒にいたのはなぜ? 等。猛禽類がもう少し出てくれればもっとよかったな。(伊藤芳晴)

1月13日(土) 群馬県板倉町 渡良瀬遊水地 Young

参加: 35名 天気: 晴

ヒドリガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ オナガガモ コガモ キンクロハジロ ミコアイサ カイツブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ セグロカモメ ミサゴ トビ チュウヒ ハイイロチュウヒ ノスリ カワセミ チョウゲンボウ コチョウゲンボウ モズ ミヤマガラス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (45種) 風もなく穏やかな冬晴れに恵まれた。スタート直後に谷中湖上空をミサゴが舞い、茂みではベニマシコ、ジョウビタキなどが見られた。谷中湖内にはミコアイサが♂♀ともに多数いた。アシ原ではホオジロ、オオジュリン、まだ明るい時間帯だったがチュウヒも飛んでいた。チュウヒのねぐら入りポイントでは、いつもよりチュウヒの帰りが遅かったが、日没前には多数が乱舞していた。ハイイロチュウヒ♀、そしてコチョウゲンボウも多数見られた。(廣田純平)

1月13日(土) 深谷市 仙元山公園

参加: 34名 天気: 快晴

カルガモ オナガガモ コガモ キジバト アオ

サギ ダイサギ コサギ カワセミ コゲラ ア  
 オゲラ モズ カケス オナガ ハシボソガラス  
 ハシブトガラス ヤマガラ ヒガラ シジュウカ  
 ラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムク  
 ドリ シロハラ アカハラ ツグミ ジョウビタ  
 キ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロ  
 セキレイ ビンズイ カワラヒワ ホオジロ カ  
 シラダカ (35種) (番外：ドバト) 気温は低い  
 が風もなく快晴。滝宮神社はパスして、唐沢川沿  
 いをいつもより遠くまで歩く。カワセミが何度  
 も見られて、22種と上々のスタートだ。しかし  
 仙元山では鳥影が薄く、期待のトラツグミも  
 現れず、やや物足りなかったか。ここでは少  
 ないヒガラが収穫。(新井 巖)

1月14日(日) 加須市 渡良瀬遊水地  
 参加：41名 天気：晴

キジ ヒシクイ ヒドリガモ マガモ カルガモ  
 オナガガモ コガモ ホシハジロ ミコアイサ  
 カワアイサ カイツブリ カンムリカイツブリ  
 ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ  
 ダイサギ コサギ クイナ オオバン イカルチ  
 ドリ イソシギ セグロカモメ ミサゴ トビ  
 チュウヒ ノスリ カワセミ アカゲラ ハヤブ  
 サ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シ  
 ジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジ  
 ロ ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ  
 スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバ  
 リ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ  
 カシラダカ アオジ オオジュリン (53種+ハク  
 チョウ属不明種) (番外：ドバト) 気温は低  
 いが風は無く、まずまずの天気。谷中湖では  
 ミコアイサが増え、カワアイサも確認でき  
 た。これに加えてヒシクイ2羽が観られた。  
 ベニマシコはコース終盤でじっくりと姿を  
 見せてくれた。(佐野和宏)

1月14日(日) 熊谷市 大麻生  
 参加：30名 天気：快晴

コジュケイ マガモ カルガモ キジバト カ  
 ワウ アオサギ ダイサギ オオバン イカルチ  
 ドリ クサシギ トビ ノスリ カワセミ コゲラ  
 アカゲラ モズ カケス ハシボソガラス ハシ  
 ブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ  
 ウグイス メジロ ムクドリ トラツグミ シロ  
 ハラ ツグミ ルリビタキ ジョウビタキ スズ

メ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ  
 ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ ミヤ  
 マホオジロ アオジ (40種) (番外：ガビチョウ)  
 土手に上がるとゴルフ場の端の木にモズ、ツグミ、  
 ジョウビタキ♀、シメがとまり、草地にカシラダ  
 カ、アオジがいた。池にカルガモ、マガモ、オオ  
 バンがいて、一部の人はミヤマホオジロ♂が見  
 られた。河原に出るとノスリが木にとまり、クサ  
 シギ、イカルチドリ、カワセミも現れた。ダイサ  
 ギ、アオサギ、カワウがいて、対岸の木にシメの  
 群れがとまった。野鳥の森入口でベニマシコ、池  
 に行くと、ルリビタキ♀、トラツグミ、シロハラ、  
 アオジ、コジュケイなどが出て来た。(千島康幸)

1月18日(木) 久喜市 久喜菖蒲公園  
 参加：30名 天気：晴

ヨシガモ ヒドリガモ アメリカヒドリ マガモ  
 カルガモ オナガガモ コガモ ホシハジロ キ  
 ンクロハジロ ホオジロガモ カイツブリ キジ  
 バト カワウ ゴイサギ アオサギ ダイサギ  
 バン オオバン セグロカモメ カワセミ コゲ  
 ラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シ  
 ジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ シロ  
 ハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキ  
 レイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ オオ  
 ジュリン (37種) (番外：ドバト) 順光のヨシガ  
 モに魅かれて一気に盛り上がった。アメリカヒド  
 リ♂、ホシハジロ♀と次々に見つかる。ホオジロ  
 ガモ♀もいたとのことだ。林ではシロハラが採餌、  
 カワラヒワもにぎやかだ。ジョウビタキ♀も人懐  
 こい。ヨシの間にメジロを、穂先にオオジュリン  
 を確認。コゲラが忙しく採餌するのを観ながら終  
 了した。(長嶋宏之)

1月20日(土) 『しらこぼと』袋づめの会  
 ボランティア：9名

相原修一、宇野澤晃、榎本秀和、海老原教子、海  
 老原美夫、大坂幸男、小林みどり、藤掛保司、松  
 村禎夫

1月21日(日) 長瀬町 長瀬  
 参加：52名 天気：晴

キジ マガモ カルガモ オナガガモ コガモ  
 カイツブリ キジバト カワウ アオサギ イソ  
 シギ トビ ノスリ コゲラ アオゲラ チョウ

ゲンボウ モズ オナガ ハシボソガラス ハシ  
 ブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ  
 ウグイス エナガ メジロ ミソサザイ ムクド  
 リ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ  
 ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ベ  
 ニマシコ シメ イカル ホオジロ (38種) 船  
 着き場から鳥見スタート。水辺の鳥を観察後、イ  
 カルの群れが見られた。近年整備された蓬莱島の  
 ベンチまわりで鳥合わせ中、アオゲラ出現で一  
 時中断。終始和やかな探鳥会となった。又お出か  
 けください。(井上幹男)

1月21日(日) さいたま市 三室地区

参加:56名 天気:晴

オカヨシガモ コガモ カイツブリ キジバト  
 カワウ ゴイサギ アオサギ ダイサギ コサギ  
 バン オオバン イカルチドリ タシギ ミサゴ  
 ハイタカ カワセミ モズ ハシボソガラス ハ  
 シブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ  
 ウグイス メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ  
 ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセ  
 キレイ タヒバリ カワラヒワ シメ ホオジロ  
 アオジ (36種) (番外:ドバト) 穏やかな陽気。  
 早々にカワセミ、ハイタカ、タヒバリが登場。そ  
 の後もホオジロ、カワラヒワ、ツグミ等が行く  
 先々で姿を見せてくれた。芝川を望む橋の上から  
 はイカルチドリやタシギも観察。充実した探鳥会  
 になった。(須崎 聡)

1月23日(火) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

中止(積雪による閉園) (中村豊己)

1月25日(木) 羽生市 羽生水郷公園

参加:22名 天気:晴

ヨシガモ マガモ カルガモ オナガガモ コガ  
 モ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ  
 ダイサギ クイナ バン オオバン トビ オオ  
 タカ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブト  
 ガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグ  
 イス メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ジ  
 ョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキ  
 レイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ  
 カシラダカ アオジ オオジュリン (38種) (番  
 外:ドバト) 大雪で公園内は真っ白。開始早々  
 真っ赤なベニマシコの登場で盛り上がる。歩き始

めると目の前にアオジ。雪のない通路上での採餌  
 に夢中で飛ばない。普段は見難いウグイスも見え  
 る。最後はシメが現れた。雪の後の探鳥会は鳥が  
 見やすく楽しめた。(相原修一)

1月28日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加:45名 天気:曇

キジ マガモ コガモ カイツブリ キジバト  
 カワウ ゴイサギ アオサギ ダイサギ クイナ  
 オオバン タゲリ タシギ セグロカモメ ハイ  
 タカ オオタカ ノスリ アリスイ チョウゲン  
 ボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス  
 シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メ  
 ジロ ムクドリ シロハラ アカハラ ツグミ  
 ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセ  
 キレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジ  
 ロ カシラダカ アオジ オオジュリン (42種)  
 開会冒頭に元支部長の中島康夫氏から、黒浜沼の  
 メインリーダーを長年務められ12月に亡くなった  
 玉井正晴氏の生前のご活躍について紹介があった  
 後に、全員で黙祷した。スタートして間もなくヨ  
 シ原ではアリスイやホオジロ類、ベニマシコのペ  
 アなどを確認。沼周辺ではタゲリ、タシギも全員  
 で観察した。遠くの枝に止まるハイタカやノスリ  
 などの猛禽類も堪能。降雪の影響が懸念されたが、  
 事故もなく無事終了。(長野誠治)

1月28日(日) 狭山市 入間川

参加:28名 天気:曇

オカヨシガモ マガモ カルガモ コガモ カイ  
 ツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ  
 コサギ オオバン ヒメアマツバメ タゲリ イ  
 カルチドリ イソシギ トビ ハイタカ カワセ  
 ミ コゲラ アオゲラ チョウゲンボウ モズ  
 ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ  
 ヒヨドリ メジロ セッカ ムクドリ トラツグ  
 ミ シロハラ ツグミ ジョウビタキ イソヒヨ  
 ドリ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグ  
 ロセキレイ タヒバリ カワラヒワ シメ ホオ  
 ジロ カシラダカ アオジ (44種) (番外:ドバト、  
 ガビチョウ) 6日前に降った雪がかなり残って  
 いる。田畑も雪に覆われたためか河原にタゲリが  
 1羽。ここでは初記録。そして、最近は常連にな  
 りつつあるイソヒヨドリが9月から3回連続で登  
 場。稲荷山公園では、ビンズイを探したが今回も

見つからなかった。しかし、シロハラ、トラツグミ、アオゲラと次々に現れる鳥たちに、皆大喜び。コースには凍結した場所もあったが、参加者の皆様のおかげで無事終了。(長谷部謙二)

2月1日(木) 戸田市 彩湖  
参加: 24名 天気: 曇後雨

キジ ハシビロガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ カイツブリ カンムリカイツブリ キジバト カワウ アオサギ バン オオバン イカルチドリ ユリカモメ セグロカモメ ノスリ アリスイ コゲラ ハヤブサ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ エナガ メジロ ムクドリ シロハラ アカハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ アオジ オオジュリン (40種) (番外: ドバト、ガビチョウ) 彩湖の水位が低い。カワウが多く、その数約300羽。水位が低いことと何か関係があるのだろうか? カンムリカイツブリの換羽がだいぶ進み、“戴冠”した美しい個体も見られた。2羽のノスリが曇り空でディスプレイフライト。春が近づいている。解散場所付近の鉄塔にとまっていたハヤブサは顔の黒い部分が大きい。亜種オオハヤブサであろう。(小林みどり)

2月3日(土) 嵐山町 菅谷館都幾川  
参加: 21名 天気: 曇時々晴

キジ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ バン オオバン イカルチドリ トビ ノスリ カワセミ コゲラ アオゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ シメ イカル ホオジロ カシラダカ アオジ (39種) (番外: ガビチョウ) 前日の雪が残る雑木林を歩くと、梢付近をヤマガラ、エナガ、コゲラの混群が移動し、アオゲラ♀が木の中から虫を取り出すのに夢中なのか、飛ばずにじっくり見られた。ホテルの里でカシラダカが水浴び。シメ、シロハラ、ツグミがいて、シジュウカラがさえずっていた。都幾川に出ると、道にアオジが出て、河原にはイカルチドリ2羽、セグロセキレイ、ハクセキレイ、タヒバリ、下流の

木にノスリがとまり、カワセミも出てくれた。対岸の木にイカルの群れ、カワラヒワの群れも止まっていた。上流にはオオバン、バン、コガモ、カルガモが、たんぼにヒバリがいた。(千島康幸)

2月3日(土) 狭山市 智光山公園  
参加: 22名 天気: 曇

オカヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト ダイサギ オオバン オオタカ カワセミ コゲラ アオゲラ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ルリビタキ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ イカル アオジ (36種) (番外: ドバト) 今冬はどこへ行ってもカモ類の少ないのが気になるが、智光山も例外ではなかった。水面にまばらに浮かぶカモは淋しい。かつては多数観られたカワセミの個体数も激減。雪の残るコースを歩きながら、一時的な現象であることをひたすら祈りたくなる1日だった。「この冬はカモの姿の少なくて寂しさ募る水辺の風情」(石光 章)

2月4日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園  
参加: 33名 天気: 晴

コジュケイ オシドリ ヒドリガモ マガモ カルガモ トモエガモ コガモ ホシハジロ キジバト カワウ アオサギ ツミ ノスリ カワセミ コゲラ アカゲラ アオゲラ モズ ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ シロハラ ツグミ ルリビタキ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ マヒワ シメ カシラダカ アオジ (36種) (番外: ガビチョウ) 2日前の降雪の影響が心配されたが、主要通路は除雪されており、公園の職員に感謝。開始時にはツミが快晴の上空を舞う。下草を刈った桜の花木園にはジョウビタキが、梅林ではカシラダカやシメ等が現れる。小鳥の混群こそなかったが、アカゲラ、アオゲラ、ルリビタキの他、マヒワの群れも観察。山田大沼は護岸工事のため観察場所に制限があった。カモ類の数は多くないもののオシドリ、トモエガモ等を確認。終了後の帰途ではアトリの群れに出会った。(鈴木秀治)



● 東京新聞の探鳥会案内に誤記

5 月 3 日 (木) 付け東京新聞「お出かけ情報・探鳥会」欄に当会の 5 月 5 日 (土) 谷津干潟探鳥会が紹介されましたが、集合時間「午後 1 時」のところ、「午前 9 時 30 分」と誤記されていました。ある方が午前 9 時 30 分に來たられもいなかったので、会事務局に電話して聞き、午後 1 時に再び訪れ参加したとのこと。

この記事は当会からの依頼に基づく案内記事ではなく、当会が毎月送る会報から記者が任意に抽出して転記するもので、校正依頼等ありません。

5 月 7 日 (月) 会事務局から注意を促すメールを同社に送ったところ、その日のうちに該当紙面担当者から陳謝の電話があり、5 月 10 日付で訂正とお詫びの記事が掲載されました。

2 度も足を運んでくださった方以外にもご迷惑をおかけしているかもしれません。申し訳ありませんでした。

● 関東ブロック協議会関連の情報

・ 5 月 27 日 (日) 付けを以て、「日本野鳥の会栃木」は「日本野鳥の会栃木県支部」に名称変更し、役員を支部長：内田裕之 (新任)、副支部長：伊村務 (新任)、遠藤孝一、手塚功の 3 名に変更すると連絡が届きました。

・ 今年度の関東ブロック協議会は日本野鳥の会群馬が担当して、9 月 8 日 (土) ~ 9 日

(日) 高崎市内で開催される予定とのこと。当会としても参加者選定などの準備を進めています。

● 会員数は

6 月 1 日現在 1,623 人です。

活動と予定

● 5 月の活動

5 月 12 日 (土) 6 月号校正 (海老原教子、海老原美夫、佐久間博文、志村佐治、長嶋宏之、藤掛保司)。

5 月 20 日 (日) 役員会 (司会：石塚敬二郎、各部の報告・関東ブロック協議会参加者・総会準備・その他)。

5 月 21 日 (月) 『野鳥』誌と同封発送しない会員向け、『しらこぼと』6 月号を郵便局から発送 (海老原美夫)。

● 7 月の予定

7 月 7 日 (土) 編集部会。普及部会。

7 月 14 日 (土) 8 月号校正 (午後 4 時から)。

7 月 15 日 (日) 役員会 (午後 4 時から)。

7 月 21 日 (土) 袋づめの会 (午後 3 時から)。

7 月 22 日 (日) 普及部会 (午後 1 時から、川越で)。

編集後記

三宅島に 1 人で鳥見に行ってきた。主目的は、アカコッコ館主催の「ぐるっと島一周バードウォッチング」に参加して、島のバードウォッチングポイントを探ること。レンジャーの内藤さんの案内で楽しい 1 日を過ごすことができた。今回の経験を元に、来年の三宅島探鳥会を企画中。乞う御期待！ (浅見)

しらこぼと 2018 年 7 月号 (第 412 号) 定価 200 円 (会員の購読料は会費に含まれます)  
 発行人 海老原美夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460  
 郵便振替 00190-3-121130 http://www.wbsj-saitama.org 事務局 office@wbsj-saitama.org  
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 編集部への野鳥情報 toridayori@hotmail.com  
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル  
 (公財) 日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org  
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社